

氏名	齋 藤 典 章		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2224 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 12 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	尿路性器悪性腫瘍のリンパ節転移 —リンパ管造影の臨床上の評価—		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 平木祥夫	教授 寺本 滋

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

尿路性器腫瘍 254 例に対しリンパ管造影を行い、その臨床上の有用性を検討した。リンパ管造影の手技の工夫によって、リンパ管描出率は 65.4 % から 83.8 % に向上、発熱・リンパ漏・肺塞栓などの合併症を 21 例（8.3 %）にみたがいずれも軽微であった。

両側描出 198 例、8309 個のリンパ節を膀胱癌取り扱い規約に準じて判定し、正診率は 70.0 % と良好であった。しかし、尿路性器悪性腫瘍の所属リンパ節群の描出個数は極めて少なく、より簡便な診断基準に基づき、他の検査法と併せて判定することでその有用性が高められると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は尿路性器腫瘍 254 例に対し、背足よりの Kinmoth リンパ管造影を行い、その有用性を検討している。両側描出 198 例、8309 個のリンパ節を膀胱癌取り扱い規約に準じて判定し、63 例（31.8 %）、181 個（2.2 %）に転移陽性と判断している。しかし、所属リンパ節に相当する仙骨、内腸動脈、閉塞孔周辺のリンパ節の描出率は極めて低く、足背よりのリンパ管造影の尿路性器癌への適用には限界のあることを改めて明らかとしている。以上は臨床上有用なる知見であり、本研究者は医学博士の学位を得る資格ありと認める。